

**製品名: Pki  $\alpha$  ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab16216**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000
分子量	

**抗原情報**

遺伝子名	PKIA
別名	PKIA; PRKACN1; cAMP-dependent protein kinase inhibitor alpha; PKI-alpha; cAMP-dependent protein kinase inhibitor; muscle/brain isoform
遺伝子 ID	5569.0
SwissProt ID	P61925
免疫原	抗血清はヒト IPKA 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 10-59

**背景**

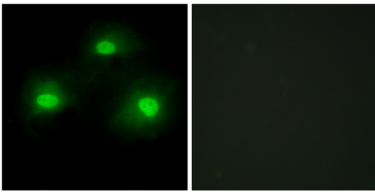
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、cAMP 依存性プロテインキナーゼ (PKA) 阻害因子ファミリーのメンバーです。こ

のタンパク質は、PKAのC $\alpha$ およびC $\beta$ 触媒サブユニットの両方と相互作用し、その活性を阻害することが実証されています。同じタンパク質をコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されています。[RefSeq提供、2008年7月]機能: このタンパク質は、cAMP依存性プロテインキナーゼ活性に対する非常に強力な競合的阻害剤であり、cAMP誘導による調節鎖の解離後に酵素の触媒サブユニットと相互作用します。、その他: 阻害部位には、調節鎖のヒンジ領域(酵素活性部位と直接相互作用する部位)および「擬基質部位」に非常に類似した領域が含まれていますが、これらの鎖とは異なり、PKIにはcAMP結合部位がありません。阻害部位内のアルギニン残基は、酵素活性部位の阻害と認識に不可欠です。、類似性:PKIファミリーに属します。、

## 研究分野

-

## 画像データ



IPKA抗体を用いたHeLa細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。